

『ニライカナイからの手紙』

2005年／日本／熊澤尚人監督作品

手紙を書く，手紙を読む。
手紙は人を思う気持ちの表れ

会員 山口 裕未 (61期)

私の大切なあの人に会いたい。この映画を見てそう思った。

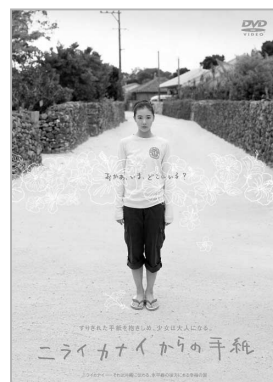
7歳の時，おかあとは別れた主人公の風希（蒼井優）。小さな郵便局の局長をしているおじいと2人で沖縄・竹富島に暮らしている。毎年誕生日に，東京の母から手紙が来る。14歳の時に届いた手紙には，「20歳になったらお母さんから説明する」とあり，おかあには事情があるとうすうす気づき始める。島で働くことを望むおじいと分かり合えないまま，18歳で写真を学ぶため東京へ行く。そして，20歳の誕生日…。

私が特に印象に残ったシーンは，東京にいる風希に，おじいの漬けたニンニク漬けが届くシーン。風希は，竹富島を出るとき，普段自分が漬けていたニンニク漬けの漬け方を，置き手紙にしていたのだった。東京での厳しい下積み生活の中，郵便局の配達員の姿がおじいと重なる。毎日叱られ，重い荷物を持って，自分が

何のために東京にいるのか分からなくなっている。そんなときに届いた，おじいのニンニク漬け。おじいへ電話をかけようとするが，躊躇してかけられない。思いやりが切なく，葛藤が苦しい。

毎年届くおかあからの手紙，風希がおじいへ宛てた手紙など，この映画にはたびたび手紙が出てくる。誰かを思って手紙を書く，自分のことを思って書いてくれた手紙を読む。どちらも心の通い合いであり，手紙は人を思う気持ちの表れなのだと感じる。大切な人を愛おしく思う気持ち，大切にしてくれている人への感謝の気持ちがこみ上げてきた。

また，この映画のもうひとつの見どころは，美しい竹富島の自然や風景。海，夕日，空，あふれるような緑に，心が癒される。赤瓦，ミンサー織，三線，祭り，水牛車。映画の所々に，竹富島の風景がちりばめられており，ゆったりとした時間の流れを感じることができる。



『ニライカナイからの手紙』
低価格版
価 格：2,625円（税込）
発売元：IMJ エンタテインメント・ボニーキャニオン